

DPC病院でジェネリック医薬品使用拡大

- 厚労省・DPC調査分科会 高額な7薬剤を包括評価対象外に -

【2007/06/29, 薬事ニュース, 1ページ, 2303文字】

厚生労働省の診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会は6月22日、DPCにおける高額な薬剤等への対応について協議。05年11月以降に保険導入又は効能追加の承認を得た医薬品のうち、包括評価の対象となった(なる)ことにより、病院の「持ち出し」が大きくなる高額な7薬剤について、08年度改定までの暫定措置として、包括評価の対象とせず、出来高算定とすることを了承した。今後7月の中医協・基本小委に諮り、了承を経て、8月に告示改正・施行する運び。

今回了承された08年度改定までの「暫定的な出来高算定」となる見通しの7薬剤は、(1)ワイスの急性骨髄性白血病治療薬「マイロターゲット注射用5mg」(成分名=ゲムツズマブオゾガマイシン)(2)シエリングブラウの悪性神経膠腫治療薬「テモダールカプセル20mg、同100mg」(テモゾロミド)(3)ヤンセンファーマの多発性骨髄腫治療薬「ベルケイド注射用3mg」(ボルテゾミブ)(4)日本イーライリリーの悪性胸膜中皮腫治療薬「アリムタ注射用500mg」(ペメトレキセド)(5)ヤンセンファーマのエイズ関連カポジ肉腫治療薬「ドキシル注20mg」(ドキシソルビン)(6)田辺製薬のベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎治療薬「レミケード点滴静注用100」(インフリキシマブ)(7)中外製薬の結腸・直腸癌治療薬「アバスチン点滴静注用100mg/4mL、同400mg/16mL」(ペバシズマブ)——の7成分9品目で、いずれも抗癌剤。

7成分9品目は、05年11月以降に保険導入又は効能追加の承認を得た医薬品90品目を、「既に06年度に使用実績のある医薬品」と「06年度に使用実績のない医薬品」に区分した上で、前者には「当該医薬品等を使用した症例の薬剤費が、使用していない症例の薬剤費の平均+1SDを超えた薬剤」、後者には「当該医薬品等の標準的な使用における薬剤費(併用する医薬品も含む)の見込み額が、使用していない症例の薬剤費の平均+1SDを超えている薬剤」であるかどうかを調べた結果、それらのルールに該当したもの。

なお、「05年11月以降」を起点としているのは、06年2月15日の中医協で了承された「05年度調査」(同年7月—10月退院患者調査)終了以降に、新規に薬価収載された高額な薬剤等を使用する患者については、DPC包括評価の対象とせず、出来高算定とすることに基づくもの。「SD」とは「標準偏差」のこと。

この日の分科会では、7薬剤を包括評価の対象外とすることを特段の異論なく了承されたが、谷川原祐介委員(慶応大医学部教授)から、病院の持ち出しが大きいアムビゾーム(抗真菌薬)、トリセノックス(抗癌剤)等3品目についても、包括対象から外し、出来高算定とするよう注文。これに対して事務局は、前述のルールに該当するかどうかチェックしたうえで対応したいとの考えを述べた。
新規準備病院の募集に約700病院が応募

この他、06年度調査の最終報告及び再入院に係る調査の結果概要が報告され、いずれも了承された。7月の中医協・基本小委に報告される。

06年度調査の結果、03年度に導入されたDPC対象病院82病院の在院日数の年次推移は、02

年21・22日、03年19・70日、04年19・13日、05年18・31日、06年17・35日と着実に減少していることが明らかになった。

また、07年度調査に参加する新規DPC準備病院の募集した結果、「概ね700を少し超えるぐらい」（保険局医療課）の病院から応募があったことが報告された。

新規参入DPC対象病院の方がGE採用は大

さらに、DPC対象病院及び準備病院における後発医薬品（ジェネリック薬、以下：GE）の使用状況についても報告された。

「03年度DPC対象病院」（82病院）の04～06年度までの薬剤費におけるGEの占める割合を見ると、2・6％、3・4％、4・1％と、毎年0・7～0・8ポイント増加。「04年度DPC対象病院」（62病院）のそれは、5・1％、7・4％、8・8％と、毎年1・4～2・3ポイント増加。「06年度DPC対象病院」（216病院）では、05年度4・1％、06年度7・1％と、1年で3ポイント増加している。これを見る限り、あとからDPC対象病院となった方が、より早く大幅に、薬剤費に占めるGEの比率が上がっていることがうかがえる。

これを踏まえて同じく04～06年度までの「医療費における薬剤費の占める割合」を見ると、「03年度DPC対象病院」（82病院）は、17・2％、17・2％、16・1％、「04年度DPC対象病院」（62病院）は、14％、13・7％、12・5％、「06年度DPC対象病院」（216病院）については、05年度14・1％、06年度12・4％となっている。「03年度DPC対象病院」（82病院）と「04年度DPC対象病院」（62病院）は、初年度こそ医療費における薬剤費の占める割合にほとんど変化が見られなかったものの、05～06年度にかけては、『06年度DPC対象病院』（216病院）の1・7ポイント減を筆頭に、1ポイント強の薬剤費の圧縮効果もみてとれる。年を追うごとに効果が現れる傾向も示唆したといえる。

そのほか、日本におけるGEの市場シェアが、04年度数量ベースで16・8％、金額ベースで5・2％であることが報告された。また、薬価基準収載品目の分類では、GEが6016品目、GEのない先発品が1761品目、ある先発品が1430品目、金額シェアはそれぞれ6％、48％、35％であることなども報告された。

以上